



特選
2012
金融広報中央
委員会会長賞

第10回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

森林価値の再発見

静岡県・静岡県立浜松西高等学校 1年 永田 真理奈

日本は、世界有数の森林大国である。実に国土の3分の2を森林が占め、先進国の中では、フィンランドの73パーセントに次ぐ、大森林国である。この豊かな森林が今大きな問題を抱えている。

日本の森林の中で、手つかずの森は20パーセント足らず。そのほかは少なくとも一度は伐採され、その後再び育ってきた二次林か人の手で植えられた人工林だ。日本では、戦後の復興期から高度成長期に多くの自然林が伐採され、人工林に姿を変えてしまった。近年、世界中で天然林の違法伐採が行われ、安価な輸入木材などの影響により、林業が衰退し、森林が荒廃の危機に直面していると聞く。

森林が私達の暮らしを安全で快適にする多くの役割を果たしていることをご存じだろうか。森林が荒れることによって困るのは林業に関わる人や山間部に住む人たちばかりではない。森林は都市部に住む私達の暮らしも支えている。水はどこに蓄えられ、私達のもとに届くのか。空気は何によって生み出されるのか。緑に癒されるのはなぜか。人が生きる上で欠かせない森林の恵みを、私達は忘れがちになってはいないだろうか。私は、今一度、森林にスポットを当て、これからの日本経済を担うべき産業の1つとして持続可能な「価値ある森林資源」に注目し、環境に優しく、人と共生できる林業を提案したいと思う。

私は、静岡県の浜松市に住んでいる。浜松市の森林は、森林率においては、68パーセントと全国平均とほぼ同じであるが、森林における「人工林」の割合が76パーセントと極めて高い特徴がある。浜松市の森林は「天竜美林」と称され、日本三大人工美林の1つに数えられる日本有数の木材産地である。

浜松市の植林の歴史は、明治時代、天竜川の度重なる洪水災害に心を痛め、民心安定、産業復興のために立ち上がった^{きんぼらめいぜん}金原明善を抜きに語ることはできない。明善は「河を治めるには、山を治めること」の信念から植林事業を行った。その後、浜松でも、戦後からの拡大造林が進められ、スギ・ヒノキの人工林を主体とした





現在の天竜林業が形成された。

先日、興味深い資料を見た。浜松市の森林の公益的機能を金額で算出しているものだ。森林には水源のかん養、国土保全、大気保全、生物多様性の保全、地球温暖化の防止など他にも多くの私達の生活に必要な機能がある。この資料は、水質の浄化・水資源の貯留・表面浸食の防止・洪水の緩和・表層崩壊の防止・野生鳥獣の保護・保健やレクリエーション機能・二酸化炭素の吸収・化石燃料の代替の9項目をもとに森林の働きを金額で算出していた。すると、浜松市の森林だけでも、1年間で約4,000億円もの評価になるという。この評価額を知ることによって森林の恵みの大きさに改めて驚くことになった。

しかし、こうした森林の多様な機能は、森林が適切に手入れされて初めて発揮されることになる。林業の荒廃の危機は浜松市も例外ではない。浜松市農林水産部森林課にお伺いしてお話をお聞きした。浜松市でも管理が行き届かず、手入れの遅れた森林が多くなっているそうだ。「人の手で植林された人工林は、手入れをしなければ荒廃してしまう。森林の荒廃を防ぐためには、木を使うことが必要だ。」と話して下さった。「木を育てる人、製品にする人、使う人」。この三者が結びつき、バランスの取れた需要と供給が保たれ、「育てて、伐^きって、使って、植える」という循環ができることで持続可能な森林が作られる。この持続可能な森林を目指して浜松市はさまざまな努力をしていた。

ここで浜松市のいくつかの取り組みについて紹介する。浜松市の森林の35パーセントはF S Cの認証を受けている。現在、世界中では1秒間にサッカー場1個分の天然林が木材供給のために破壊されていると言われている。違法伐採されたあとの森林は貧困を生み、また、機能の衰えた森林は災害をも引き起こしている。中学時代に習った資料集で、熱帯木材輸入国において日本が中国に次ぐ2位だったことは記憶に新しい。日本で輸入される安価な木材は違法伐採によるものではないのか。違法伐採は、地域環境においても、地球環境においても深刻な問題である。

F S C 認証とは、森を守るための制度だ。国際的に統一された基準によって、森林の管理が環境や地域社会に配慮して適切に行われているかどうか、経済的にも継続可能な森かどうかを審査したうえで認証が与えられる。認証を得た森林から生産された建築木材や木材製品にはマークが付けられ、私達がそれを選んで買うことで責任ある管理がされた森林の製品を使うことができ、間接的に、世界





や地域の森林保全も応援することができる。意識レベルの高い森林管理の形だ。F S C 認証林は、まだ、日本の森林の1.5パーセントというのが現状であるが、平成23年9月、浜松市は市町村別取得面積で日本一となった。浜松市では、安全で良質な木材がたくさん生産されている。浜松市民として誇らしい気持ちになった。市では、地産地消のメリットを活かすため、住宅助成の「天竜材の家／百年住居（すまいる）」事業や木質ペレットストーブの購入・設置補助なども行っている。

また、浜松市は、23年6月より、木質ペレットの生産を始めた。木質ペレットは、木材を圧縮成型した小型の燃料だ。森林づくりや木材加工の過程で発生する間伐材や木くずを再利用して作られる。森林の循環を守ることで、いつまでも使うことができる再生可能なエネルギーとされている。燃やしたときに排出される二酸化炭素は、木が成長するときに吸収した二酸化炭素なので、大気中の二酸化炭素量を増加させないクリーンエネルギーである。

木質ペレットの工場を見学したくなった私は龍山森林組合を訪ねた。龍山森林組合に続く道は、木々で彩られていた。これらの人工林の森が、浜松が誇る天竜美林だ。目を見張るほど美しく整備された森林もあれば、間伐作業が遅れた暗い森林も見られた。この人工林の多くが民間で管理されていることを考えると厳しい現状が見て取れた。

龍山森林組合では、組合長の片桐さんにペレット工場へ案内していただき、お話を伺った。工場では、3センチほどの新しいペレットがどんどん生産されている。片桐さんは、「木質ペレットを生産することで、これまであまり利用されずにいた間伐材を減らし、資源を使い切り、付加価値のあるものに変えることは、人工林の手入れにかかる費用を生み出し、森林の循環を助けることになる。木質ペレットは、ストーブだけでなく、冷暖房や発電などいろいろな使い方ができ、環境に優しい再生可能な新たなエネルギーだ。地元産の木質ペレットを是非環境と森林のために使ってほしい。」と話して下さった。私は、また新しい価値ある森林づくりを支える力が生まれたことを知った。

これらの浜松市の取り組みの中で、天竜区内で生産された木をふんだんに使用した天竜区役所が作られた。一部には、F S C材も使用されている。これは、全国初の取り組みだそうだ。木質ペレットを燃料にしたエアコンが利用され、





浜松の森林を有効に活用する区役所となっている。

日本は木を切っても、また植えれば生えてくるという適切な温度と湿度を持つ国だ。そして、世界でも数少ない木を循環させることが可能な国。しかし、その分人の力が必要で、放っておいては荒廃してしまう森林でもある。龍山森林組合の片桐さんの「今、安い輸入材の影響で、木材は昔の5分の1ぐらいの値段でしか売れない。働いてくれる人たちに十分なお給料すら払えないのが一番つらい。」という言葉を思い出す。これでは、日本の林業はなくなってしまうのではないか。日本には、豊かで美しく安全な森林がたくさんある。多くの人に日本の森林の素晴らしさを知ってもらい、50年もの長い年月をかけ、守り育ててきた貴重な資源を、無駄にすることなく、未来へと受け継いでいくことが必要だと思う。日本にとって、木を切って使って循環させる、それが最も森林と共生していくために必要な方法だと私は考える。人は、昔から、自然と共生しながら、自然にあるものを使うことで発展し、また自然を守り続けてきた。私は、大切に育てられた地元の木材製品を使うことで森林を支えていく仕組みに積極的に参加していこうと思う。

昨年^{みぞう}の東日本大震災では、日本は未曾有の被害を受け、新たなエネルギーを模索している。今年^{みぞう}の4月、浜松市は、新エネルギー推進事業本部を設置し、エネルギーの地産地消、エネルギーの自給率の向上に乗り出した。バイオマス発電も検討されている。電力業界では、近年、石炭火力発電所において、石炭に木質バイオマスを混合させる混焼発電が拡大している。間伐材は、搬出・利用に相当のコストがかかるという課題がある。木質ペレットに加工することで、エネルギー密度を上げ、運搬・貯蔵も容易にすることができるが、ここでも安い輸入ペレットとの競争が避けられない。実際、浜松市に電力を供給する中部電力は輸入チップを利用している。平成24年3月の日刊木材新聞によると、中部電力も2月29日から石炭と三重県産間伐材チップによる混焼発電の実証実験を開始したそうだ。木質バイオマスの未来には可能性が十分ある。間伐材の需要拡大による森林の整備促進に期待したいと思う。

私達の住んでいる日本の恵まれた森林資源の価値を再発見し、森林と人が環境的にも経済的にも共生しあうことで、持続可能な豊かな暮らしが実現できると確信している。





<参考文献>

- ・静岡新聞 2010年11月22日「地域材使用の住宅助成人気」
- ・静岡新聞 2011年1月1日「日本は世界有数の森林国」
- ・日刊木材新聞 2012年3月1日「三重県産間伐材チップの混燃発電実験」
- ・井上俊『静岡・緑と花のよもやま話』羽衣出版、2005年
- ・『エコノワマガジン』vol.3、2010年11月
- ・NPO法人静岡森林エネルギー研究会 木質ペレットと木質ペレットストーブに関するチラシ
- ・金原治山治水財団「金原明善翁生家」パンフレット
- ・金原治山治水財団「明善記念館案内」パンフレット
- ・静岡県浜松市「浜松市森林・林業ビジョン」2007年3月
- ・天竜総合事務所森林課「天竜の森林のこと」2011年10月
- ・天竜林業振興協議会「知ってください。浜松市FSC®の森林のこと。」パンフレット、2011年10月
- ・浜松市産業部農林業振興課「浜松市の森林・林業の現況」2006年3月
- ・龍山森林組合「てんりゅう浜松産ペレット」チラシ
- ・浜松市「浜松市の新エネルギー政策」
URL http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/businessindex/new_ene/index.htm
- ・林野庁「森林・林業白書」（平成23年度、22年度）
URL <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/>

